

## (1) 農地中間管理事業 申請書類 (貸し手)

### ◆貸し手側 記入例

## (2) 農地中間管理事業 申請書類 (借り手)

### ◆借り手側 記入例

2. 金利(利子率)の変動(利子率を変動する要因と利子率の変動率に注目せよ)と、日(出)による影響、日(出)による影響を述べよ。

#### ■ 大陸比日本更吸引人

品名 又は名称	(A)と同様	(B)の取扱いに要する時の記載の状況及び 操作又は検査の手順に供する用具の箇数(1)	主な 操作日 (L)	主な取扱いの状況及び用具の種類(2)(3)(4)	主な取扱いの箇数(5)	主な取扱いの日数 (6)	主な取扱いの状況(7)	主な取扱いの箇数(8)	主な取扱いの日数 (9)
今日利用開始時間(10)	(A)と同様	(A)と同様	最終	最終	最終	最終	最終	最終	最終

(1) 2007年1月1日，甲公司与乙公司签订一项租赁合同，将一栋办公楼出租给乙公司，租赁期为10年，每年租金为100万元，每年于12月31日支付。办公楼的原价为1000万元，预计使用年限为20年，采用直线法计提折旧，预计净残值为0。2007年1月1日，该办公楼的公允价值为1100万元。2007年12月31日，该办公楼的公允价值为1050万元。2008年1月1日，甲公司与丙公司签订一项租赁合同，将该办公楼转租给丙公司，租赁期为5年，每年租金为120万元，每年于12月31日支付。2008年1月1日，该办公楼的公允价值为1000万元。2008年12月31日，该办公楼的公允价值为950万元。2009年1月1日，甲公司与丁公司签订一项租赁合同，将该办公楼转租给丁公司，租赁期为5年，每年租金为120万元，每年于12月31日支付。2009年1月1日，该办公楼的公允价值为900万元。2009年12月31日，该办公楼的公允价值为850万元。2010年1月1日，甲公司与戊公司签订一项租赁合同，将该办公楼转租给戊公司，租赁期为5年，每年租金为120万元，每年于12月31日支付。2010年1月1日，该办公楼的公允价值为800万元。2010年12月31日，该办公楼的公允价值为750万元。2011年1月1日，甲公司与己公司签订一项租赁合同，将该办公楼转租给己公司，租赁期为5年，每年租金为120万元，每年于12月31日支付。2011年1月1日，该办公楼的公允价值为700万元。2011年12月31日，该办公楼的公允价值为650万元。2012年1月1日，甲公司与庚公司签订一项租赁合同，将该办公楼转租给庚公司，租赁期为5年，每年租金为120万元，每年于12月31日支付。2012年1月1日，该办公楼的公允价值为600万元。2012年12月31日，该办公楼的公允价值为550万元。2013年1月1日，甲公司与辛公司签订一项租赁合同，将该办公楼转租给辛公司，租赁期为5年，每年租金为120万元，每年于12月31日支付。2013年1月1日，该办公楼的公允价值为500万元。2013年12月31日，该办公楼的公允价值为450万元。2014年1月1日，甲公司与壬公司签订一项租赁合同，将该办公楼转租给壬公司，租赁期为5年，每年租金为120万元，每年于12月31日支付。2014年1月1日，该办公楼的公允价值为400万元。2014年12月31日，该办公楼的公允价值为350万元。2015年1月1日，甲公司与癸公司签订一项租赁合同，将该办公楼转租给癸公司，租赁期为5年，每年租金为120万元，每年于12月31日支付。2015年1月1日，该办公楼的公允价值为300万元。2015年12月31日，该办公楼的公允价值为250万元。2016年1月1日，甲公司与壬公司签订一项租赁合同，将该办公楼转租给壬公司，租赁期为5年，每年租金为120万元，每年于12月31日支付。2016年1月1日，该办公楼的公允价值为200万元。2016年12月31日，该办公楼的公允价值为150万元。2017年1月1日，甲公司与癸公司签订一项租赁合同，将该办公楼转租给癸公司，租赁期为5年，每年租金为120万元，每年于12月31日支付。2017年1月1日，该办公楼的公允价值为100万元。2017年12月31日，该办公楼的公允价值为50万元。2018年1月1日，甲公司与壬公司签订一项租赁合同，将该办公楼转租给壬公司，租赁期为5年，每年租金为120万元，每年于12月31日支付。2018年1月1日，该办公楼的公允价值为50万元。2018年12月31日，该办公楼的公允价值为0万元。2019年1月1日，甲公司与癸公司签订一项租赁合同，将该办公楼转租给癸公司，租赁期为5年，每年租金为120万元，每年于12月31日支付。2019年1月1日，该办公楼的公允价值为0万元。2019年12月31日，该办公楼的公允价值为0万元。

**選択肢「他の会員登録」を選択し、アカウント登録を行ってください。**  
会員登録の操作手順は、登録する会員の属性を「会員登録用会員登録」として選択します。  
会員登録の操作手順は、登録する会員の属性を「個人登録用会員登録」として選択します。  
登録手順は、会員登録手順と、個人登録手順とで、異なります。

（1）被子植物的花被由萼片、花瓣、雄蕊和雌蕊组成，其中萼片和花瓣合称花被片，雄蕊和雌蕊合称花蕊。

（2）被子植物的花被片常有颜色，形状和大小的分化，如桃花的花被片有5片，其中4片是花瓣，1片是萼片，花被片的形状有单瓣和重瓣之分，颜色有红、黄、白、紫等，花被片的大小也有很大差别。

（3）被子植物的花被片常有颜色，形状和大小的分化，如桃花的花被片有5片，其中4片是花瓣，1片是萼片，花被片的形状有单瓣和重瓣之分，颜色有红、黄、白、紫等，花被片的大小也有很大差别。

（4）被子植物的花被片常有颜色，形状和大小的分化，如桃花的花被片有5片，其中4片是花瓣，1片是萼片，花被片的形状有单瓣和重瓣之分，颜色有红、黄、白、紫等，花被片的大小也有很大差别。

## ①借り手情報

一 氏名、住所、電話番号を記入

※法人は代表者名も記入が必要です。

②同意欄（自署又は押印）

※法人の場合は代表者印または社印

### ③ 農地情報

—所在、現況地目、面積を記入。

※一部面積を貸借する場合は

○○m<sup>2</sup>の

④契約情報  
— 期間(5年以上)、借賃等を記入。  
借賃は10aあたり 一筆あたり 金筆の

**いずれかが分かるように記入をお願いします。**  
期間借地の場合は備考欄に期間を記入。  
**物納（米又は現金）の場合は借賃、支払方法の欄に記入し、別紙の物納申出書を併せて提出。**

## ⑤ 営農狀況

△ 借り手の営農状況を記入。

※詳細は3ページ目、4ページ目を参照してください。

## ⑥ チェック欄

地域計画について、ご確認いただきチェックを入れてください。

### （3）借り手の営農状況 記入方法（個人の場合）

### ◆利用権設定関係（借り手）

- ① 今回借りる農地面積の田・畠・合計を記入します。
  - ② 現在耕作中の農地面積を記入します。他市町村で耕作中の農地があれば2段目にご記載ください。※合計についても忘れずにご記載ください。
  - ③ 現在の主たる経営作目をご記入ください。（例：米、麦）
  - ④ 世帯員の農作業従事状況を記入します。  
世帯員 ≥ 農業従事者 + 農業補助者になっているかご確認をお願いいたします。
  - ⑤ アルバイトやパート等の雇用している方の労働日数を記入します。  
(例) 労働日数が100日と120日の2人を雇用している場合は、  
220日と記入します。
  - ⑥ 現在の飼育・保有状況をご記入ください。
  - ⑦ 1年間で農業に従事する日数をご記入ください。

## (4) 借り手の営農状況 記入方法 (法人の場合)

### 1 一般法人の場合

申請書下部に記入せず、別紙に営農状況をご記入ください。

(農地所有適格法人以外の法人の場合)

整理番号		法人の名称(A)			賃借権の設定等を受ける者(借受人)の農業経営の状況等										
賃借権の設定等を受ける土地の面積 (B)		(A) の農作業に従事する者の配置の状況及び耕作又は養蚕の事業に供している農用地の面積 (C)			賃借権の設定等を受ける法人の主たる生産作物 (D)		賃借権の設定等を受ける法人の業務執行役員等の状況 (E)			賃借権の設定等を受ける法人の主な畜産の飼育状況(F)			賃借権の設定等を受ける法人の主な農機具の所有の状況(G)		
農地	市町村	耕作者 氏名	就労地 場所 名	面積 m <sup>2</sup>	年間農業従事日数						種類	数量	種類	数量	
					前年 実績	見込み	前年 実績	見込み	前年 実績	見込み					
採草放牧地				農地											
その他				農地											
計				採草放牧地											
雇用労働力(年間延日数)				6	人日										

- ① 法人の名称、業務執行役員等の状況をご記入ください。
- ② 今回賃借権を設定する面積をご記入ください。
- ③ 現在耕作中の農地面積を記入します。他市町村で耕作中の農地があれば2段目にご記載ください。

※合計についても忘れずにご記載ください

- ④ 現在の主たる経営作目をご記入ください。(例:米、麦)
- ⑤ 現在の飼育・保有状況をご記入ください。
- ⑥ アルバイトやパート等の雇用している方の労働日数をご記入ください。  
(例) 労働日数が100日と120日の2人を雇用している場合は、220日と記入します。

### 2 農地所有適格法人の場合

農地所有適格法人の場合は別紙の提出の必要はありません。

### ※新規法人の場合

農地中間管理事業を初めて利用する法人(適格法人・一般法人どちらも)は、法人の定款の提出が必要となります。